

社会福祉法人ロザリオの聖母会
聖母療育園

医師募集概要

社会福祉法人ロザリオの聖母会

「光のあたりにくい人々と共に歩む」

ロザリオの聖母会は、
1931年にカトリック司祭で外科医師でもあった
戸塚文卿神父が、ナザレトハウスという
結核療養所を東京市外荏原（現在の品川区荏原）から
矢指村野中（現在の旭市野中）に移築したことを起源とします。

千葉県旭市・香取市を中心に、
「光のあたりにくい人々とともに歩む」の経営理念により、
23の施設、事業所において、
知的・身体・発達障害のある方が地域で安心して暮らせるよう、多様な支援を行っています。
病院や入所施設及びグループホーム、
通所施設、相談事業など、
利用者のニーズに合わせたサービスを提供し、
地域社会との連携を深めながら、
共に歩むことを目指しています。

創設以来ずっと受け継がれる理念
「光のあたりにくい人々と共に歩む」に基づき、
苦しんでいる人に奉仕すること、
あらゆる人の「いのち」を大切にすることが、
ここで働くみんなの行動原理になっています。

聖母療育園とは



重度の精神発達遅滞と重度肢体不自由を併せ持つ
重症心身障害児・者の入所施設です。

千葉県唯一の民間施設として昭和63年開設。
常時医学的管理のもと、
専門的な知識・技術を活かした療育を提供し、
豊かな生活を支援します。

入所者の方に加え、在宅の重症心身障害児・者への
療育訓練、短期入所、歯科診療・相談も担う、
地域に不可欠な存在です。

多様なニーズに応え専門性を深化。
多職種連携でチーム医療を実践し、
入所者の成長を間近で実感できる臨床医としての喜びがあります。

在宅支援にも携わり地域医療に貢献。
必要な医療設備を備え、それぞれの専門性を活かしながら
丁寧な医療・療育に取り組む環境です。

病院紹介

長期入所児者への支援

当園は重度の精神発達遅滞と重度の肢体不自由が重複している重症心身障害児が入所している施設です。医療・看護・支援・リハビリ等の職種が連携し「療育」を行い、利用者のQOL向上を目指し、日々いきいきした生活が営めるよう努めています。

医 療

重症心身障害児者には様々な医療が必要です。その為に、病院機能を持ち対応しています。

リハビリ

より快適で楽しい園生活を過ごせるよう理学療法士、言語聴覚士、作業療法士が利用者一人一人にあったプログラムを実施しています。

日中活動

利用者全体で行う音楽を中心としたいきいきクラブ、元気会のほか、個々の状態にあわせて、グループ活動を行っています。その他、レクリエーション大会、クリスマス会、お楽しみ会、お誕生会、部屋ごとに外出も行っています。

看 護

利用者の日々の健康管理を行いながら、QOLの向上を目指し、いきいきとした生活を営めるよう支援します。

食 事

利用者の状態に応じて食形態やカロリー等、栄養士が管理し、よりよい食事を提供できるよう努めています。

入 浴

個々の身体状況に合わせて、一般浴、機械浴により入浴を行っています。



短期入所

短期入所は公的な制度です。家庭の都合（家族の病気、休養、冠婚葬祭など）により一時的に重症児者の介護ができない時に利用されます。
ケースワーカーによる在宅障害児・者の様々な相談・情報提供も行っております。



支援内容

- ・日常生活全般の支援（看護師・支援員が支援致します。）
- ・入所者全体で行う活動やグループ活動に参加することもできます。
- ・入浴サービス（火・金）

食事

利用者の状況を配慮して食形態やカロリー等、栄養士が管理し、より良い食事提供を心掛けています。

健康管理

- ・医師が、入退所時や日々の診療にあたります。
- ・指定医療機関等に紹介させて頂くことがあります。



リハビリテーション

医師の指示のもとに、様々な専門職が障害児・者のより良い生活のお手伝いをしています。
目指すのは「安心」「安楽」「安全」な生活です。



歯科診療

聖母療育園内に於いて障害者の方を対象とした歯科診療を行っております。



園長先生インタビュー



地域に求められる障害児・者支援を担い、 光のあたりにくい人々に寄り添う

— ご経歴について伺います

1955年に千葉大学医学部を卒業後、千葉大学の小児科に入局しました。専門は先天代謝異常症です。先天代謝異常症は指定難病で、重症心身障害の原因となる疾患のひとつでもあります。関連病院や大学で研鑽を積み、レジデント時代を過ごした四街道市の下志津病院に小児科医長として2000年に戻りました。重症心身障害児・者支援を中心に尽力し、2012年から2021年3月まで下志津病院の副院長を、以後は在宅医療支援センター長を務めました。

— こちらの園長には2024年4月にご就任されたのですね

下志津病院に勤務していた際に患者さんの紹介等もあり、ある程度は当園の事情を理解していました。林事務長より非常に熱心にお誘い頂いたということもあり、お受けすることになり、2024年4月に園長に着任しました。

— 先生が重症心身障害の方に携わるようになったきっかけなどありますか

先天代謝異常症の人が重症心身障害になってしまうことも多いですし、医師4年目に赴任した下志津病院の頃からずっと重症心身障害を診ているので、若い頃から身近な存在でした。当時の上司だった先生が重症心身障害分野の権威の先生で、その先生の薫陶を受けたこともあります。



一 園の特徴や地域での役割について教えてください

当園は殆どが長期入所の方で、その他には短期入所や通園でのケアを行っています。通園センターは別事業所として当園の隣地にあります。

県内に重症心身障害児施設は6ヵ所だけですので、近隣だけではなく遠方からの入所も受け入れています。

入所者の方は主に中・軽度の方で、医療依存度の高い方はそれほど多くありません。看護体制の問題もあって最重度の方の受け入れはなかなか難しいのですが、入所者の生活の質においては、看護師以外にも保育士や支援員といった多くのスタッフが一生懸命頑張ってくれており非常にレベルが高い施設です。数少ない重症心身障害児のための施設として、引き続き重症心身障害の方に寄り添う使命を担っていきたいと考えています。

一 周辺病院との連携などはありますか

この辺りでは重症心身障害児の在宅医療支援を旭中央病院が積極的に行っていますので、その患者さんが当園に入所されたり、短期利用されたりという形で協力関係が成り立っています。周辺病院や他の重症心身障害児施設ともよく連携が取れています。

一 園長に着任されて、新たに取り組んでいることがあれば教えてください

私はインフェクションコントロールドクターの資格を持っていて、下志津病院でも院内感染対策委員会の委員長を担っていましたので、当園でも感染対策の強化に少しずつ取り組んでいるところです。

医療従事者だけでなく支援員など多職種がいる施設のため、どうしても感染症に対する個の意識にバラつきがございます。昔からの病棟で大部屋が多いことや、食事も広間で皆一緒に食べますので、和気あいあいとしていて良い反面、感染対策上は不利な面があります。

先日もPCR検査の機械を導入するなど、初動の診断も含め対策が的確に行えるよう改善を進めています。

一 どんな先生にお越しいただきたいですか

重症心身障害は基本的には小児期からなってしまう病気なので小児科の先生が携わっている場合が多いのですが、今、入所者で一番多いのは40代、50代の方で、60代の入所者さんもいらっしゃいます。

ですから、内科の先生であれば十分に対応いただけます。重症心身障害の方に寄り添ってもらえる心さえあれば、重症心身障害特有の病状などは私から指導もさせていただきますので、どうぞ安心なさってください。



園長先生インタビュー 2

やりがいある仕事と、 趣味も楽しめる豊かな生活の両立

ー 先生は園長に着任後、こちらに転居されたと伺いました

私は神奈川県の出身ですが、ここは東京から遠いなど地理的には不便な面もあります。しかしながら、車なら1時間半程で都内に出られるので、妻と月に一度くらいは買い物などで都内に出かけています。

千葉市内もそんなに遠くありません。都心から来られる先生でも、車の運転が苦でなければ、イメージよりも都心から離れていないので困ることはないと思います。

ー 旭市での生活はいかがでしょう

この辺りは海のすぐ傍で、リゾート分譲地があります。

平日でも夕方4時、5時頃にサーフィンをされている方など、仕事とプライベートの豊かさを両立している人が多く住まわれている地域です。釣りも有名で、海のアクティビティがお好きな方には魅力的な環境であると思います。

私はテニスに興味なので、プライベートの時間は法人の敷地内のテニスコートや市営コートで毎週テニスを楽しんでいます。

食べ物は何でも新鮮で美味しいですし、家ではガーデニングやバーベキューを楽しむなど、ゆったりとしたスローライフを送っています。

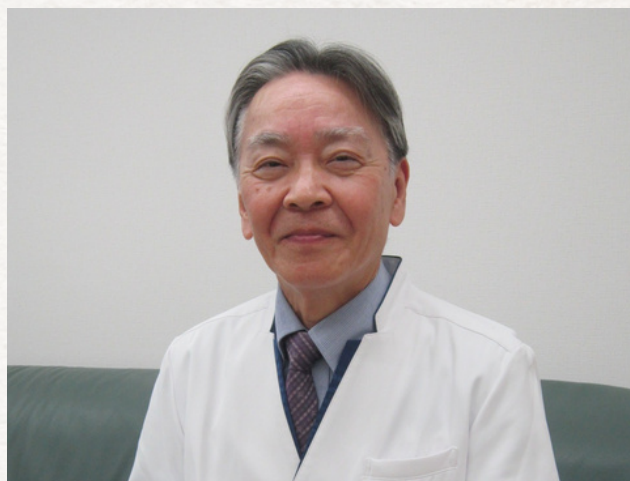


ー先生方へのメッセージをお願いします

業務自体も比較的時間の余裕がある勤務ですので、自分のペースで仕事をしながら、プライベートの時間も楽しむことができます。

常勤の先生がもう1名来てくだされば、長期休暇もお互いに融通し合って取りやすくなりますので、さらに働きやすい職場になるでしょう。

重症心身障害の専門性を発揮したい先生から、重症心身障害に携わってみたいという先生、働き方や生活を見直して新たなワークライフを築きたい先生など、幅広い先生方からご関心をお寄せいただけたらと思います。



院長（園長） 山本 重則

事務長インタビュー

あたたかな職場環境の中、 人の成長を点から線で見たい喜び

― 法人の成り立ちについて伺います

当法人は、1936年に外科医師でもあった戸塚文卿神父が開設した結核療養所を、東京からこの旭市の地に移築したことに始まります。

現在の社会福祉法人となったのは1951年ですが、1955年になって結核の患者さんが徐々に減る中で精神科病院に転用されました。

聖母療育園は重症心身障害児施設が不足しているという県からの要望も受けて、1989年に千葉県唯一の民間の重症心身障害児施設として開設されました。その後も地域のニーズに合わせて、身体障害者の入所施設や知的障害者の入所施設、通所施設や相談事業所へと広がり、現在は20を超える事業所を抱えています。

障害分野に関しては県内で最も包括的な支援を行っている法人であり、支援の点が線になっていく中でお子さんの成長を見ていけるところがこの法人・施設で働く喜びだと感じます。

― 園の特徴を教えてください

当園は入所を主体とする重症心身障害児の療育施設です。医師、看護師だけでなくリハビリの理学療法士や作業療法士、薬剤師、栄養士、言語聴覚士、心理士などが在籍しており、療育においてこれほどの多職種が関わっている施設は珍しいと思います。入所支援だけでなくリハビリ外来や障害者の歯科診療等を行っている点も特徴です。

― 今後の計画や構想があればお聞かせください

重症心身障害児の施設は、この地域には当園を除いて他にありません。

西は千葉市や四街道市の辺りまで、北は茨城県南部の辺りまで施設がありませんので、当園が重症心身障害児支援の拠点として、さらに支援を広げていく必要があると考えています。

また、普段生活の中で重症心身障害の方を見かけることはあまりないと思いますが、できれば重症心身障害の方々が地域の中でより自然に皆さんと同じ生活の中で過ごせるような環境を作っていきたい、という理想を掲げています。当園は入所支援が中心の施設ではありますが、在宅での療育支援など地域の中に支援を広げていくことにご関心をお持ちの先生がいらっしゃれば、そのような取り組みもぜひ一緒にやっていきたいですね。

― どんな先生にお越しいただきたいですか

小児科の先生全般に言えることかもしれませんが、当園の先生方は本当に優しく物腰の柔らかな先生方ですので、同様にお子さんや入所者さんに優しく接して下さる先生を希望しています。加えて、先生方は医師という立場上、病院でも頼られることが多いと思いますが、福祉の職員においてはより一層、先生の判断に頼る面があります。頼られることが先生ご自身のモチベーションになったり、嬉しく思ってもらえる方だとありがたいですね。職員対抗バレーボール大会を開催するなど、仕事一辺倒ではなく皆で楽しみながらという雰囲気の職場ですので、一緒に楽しんでいただけたらと思います。

事務長インタビュー

― 事務長から見た園長先生について教えてください

今こうして一緒に働かせてもらっている以前から、山本先生とは20年来の間柄ですが、先生が怒っているところを一度も見たことがありません。

とにかく優しく、いつでも冷静です。広い見識を持って多角的に物事を判断されるので、事務長として経営や事務を担う上でも大変助けられています。医師として管理者として、そして人としても大変尊敬できる先生です。

― 移住を検討される先生に、地域のPRをいただけますか

この辺りは、とにかく食べ物が美味しいです。旭市は農業生産額が全国の市町村で10位以内に入る全国屈指の生産地です。

特に豚肉は全国第3位の出荷額で、漁業に関しても千葉県内では銚子港に次いで旭市の飯岡漁港が漁獲高2位を誇っています。野菜や果物含めて、新鮮で美味しい物が沢山あります。また、全国展開しているような洋服や日用品のお店、レストランなども大抵揃っているので、普段の生活で事欠くことはさほどありません。

温暖で雪が降らないため過ごしやすく、人もおおらかです。移住されてくる方も温かく迎え入れる雰囲気があります。

また、旭市では移住支援や子育て支援も充実しており、多くの方が旭市に転居してこられています。園長の山本先生もこの移住支援制度を利用して転居してこられた方の一人です。



― 最後に、先生方へメッセージをお願いします

定年を過ぎてもう少し働きたいという先生から、福祉やこの障害分野、療育の部分で頑張りたいという若い先生まで、個々の先生に合わせたさまざまな働き方のご提案が可能です。

入所者の病棟管理だけでなく、例えば地域の中で小児科外来をやりたいなどの希望があれば、先生のやりたいことが実現できるようできる限りのサポートをいたしますので、ぜひご相談ください。

小児科にこだわらず内科、外科、その他のご専門の先生も歓迎しています。園長先生もいらっしゃいますし、近隣の旭中央病院とも連携が取れていますので、未経験の先生でも一人で抱え込んでしまうことのない環境です。

見学含めて、ぜひお気軽にお問い合わせいただけますと幸いです。

ほぼ病棟管理のみでゆったり勤務 セカンドキャリア（70代前半までOK） 様々な働き方のご提案が可能です！

▼小児科・一般内科▼

就業場所 : 社会福祉法人コザリオの聖母会 聖母療育園
勤務開始 : 随時
募集背景 : 体制強化のため
募集科目 : 小児科、一般内科
勤務内容 : （雇入れ直後）小児科、一般内科医師業務全般（変更の範囲）なし

病棟管理

病棟管理が主な業務となります。

担当コマ数：8～10コマ程度

担当患者数：50名（入所定員50名）

年齢層：3歳～65歳（2024年12月時点）

平均年齢 44.7歳（40中盤～50前半がボリュームゾーン※）

子供5名（未就学、就学含む）

その他：車いす利用者50名

外来診療

小児神経外来やリハ問診など（ご希望あれば相談可）

勤務日数 : 週5日（週4日も相談可）

勤務時間 : 08：30～17：30

週休2日（シフト制）

※月1～2回程度は土曜or日曜の勤務をお願いする可能性あり。

休憩時間 : 60分（概ね12：00～13：00）

当直 : 週1～2回（必須）※曜日は要相談

平日：1回35,000円

土日祝当直：1回40,000円

日直：1回50,000円

休日 : 土日、日曜、祝日

基本給与 : 1,200～1,800万円

※目安：週4日で1,200～1,400万円程度（当直手当別途支給）

モデル給与：週5日、当直週2回の場合

1,700万円+1回35,000円×週2回×50週=2,050万円

その他 : 役職は要相談

福利厚生

福利厚生・支援制度(全科共通)

契約期間の定め	： あり（勤務開始日から12か月）
契 約 更 新	： あり（業務量・職務能力・経営状況等により判断する）
休 暇	： 年末年始休暇（12/30～1/3） 有給休暇（初年度15日／年） クリスマス休暇（12/25）
退 職 金	： あり
各 種 保 険	： 厚生年金保険、雇用保険、健康保険、労災保険、企業年金基金
赴 任 手 当	： 検討可（要相談）
住 宅 手 当	： 借家は15,000円まで、借り上げ社宅は半額負担（負担上限5万円） 法人内社宅の利用も可（要相談）
通 勤 手 当	： 実費分支給（自家用車、バス・電車）
扶 養 手 当	： 一人目6,500円、二人目以降5,000、配偶者13,500円
時 間 外 手 当	： あり
学 会 参 加	： あり（出張扱いで2回まで）※発表有無等要相談
賞 与	： 年俸に含む
昇 給	： あり（業績等により昇給額は要相談）
育 児 支 援	： なし
駐 車 場	： あり
定 年 制 度	： あり（再雇用制度あり）
試 用 期 間	： あり
時 間 外 勤 務	： あり（当直医の到着が遅れた際、到着まで待機が発生する場合あり。）
固 定 残 業 代	： なし
受動喫煙対策	： 敷地内禁煙／喫煙室の設置（無）





22の施設や事業所で働く600人が
交流できる場が、たくさんあります。

当会の自慢の一つが、福利厚生施設やイベントや部活動。会議室や図書館を備えた職員会館、多人数の研修や会議を行う中沢ホール、旭市と香取市にある体育館、野球やサッカーができるロザリオグラウンド、全天候型テニスコート、保養所など、充実の施設を活用してさまざまなイベントを行っています。

有志が集まって自由にスポーツをしたりイベントを開いたりしていますが、毎年6月に行われる施設対抗バレーボール大会や12月のクリスマスコンサートなど、みんなが楽しみにしているイベントも。

また部活動も、野球部・バレーボール部・陸上部・山岳部・バスケットボール部などがあり、初心者から上級者までわきあいあいと楽しんでいます。



千葉県旭市について

温暖な気候、マリンスポーツからグルメまで魅力溢れる街

千葉県旭市は、九十九里浜に面した海沿いのまちで、年間平均気温約15℃の温暖な気候と豊かな自然が魅力的な街です。

海水浴、サーフィン、釣り、キャンプなど、多彩なアクティビティを楽しむことができます。

千葉県内有数の水揚げ量を誇る、飯岡漁港直送の海鮮グルメをはじめ、テレビなどでも取り上げられる全国第3位の出荷額を誇る豚肉、イチゴをはじめとする果物や野菜の生鮮まで美食巡りには事欠きません。



千葉県北東部の海沿いの街

千葉県北東部に位置する旭市は、千葉市から50km圏、都心から80km圏にあるため、東京からは車(高速利用)で1時間45分、千葉方面からも1時間程度です。

電車では、東京駅よりJR総武本線・特急しおさいで旭駅まで約1時間30分で到着することができます。



郷里愛が熱く、団結する街

70年以上の歴史があり、例年10万人を超える人々が訪れる夏の風物詩「旭市七夕市民まつり」では、600m四方の大規模な歩行者天国が設けられ、パレードや陽気な祭り囃子、幻想的な光と七夕飾り、多くの夜店や飲食の屋台でにぎわいます。



施設概要

名 称 : 社会福祉法人ロザリオの聖母会 聖母療育園
 住 所 : 〒289-2513 千葉県旭市野中3831
 院長(園長) : 山本 重則
 病 床 数 : 医療ベッド数54床(長期入所定員50名、短期入所4名)
 診療科目 : 一般内科、小児科、リハビリテーション科、歯科
 アクセス : JR総武本線「旭駅」からタクシーで約10分程度
 高速バス「旭中央病院東」バス停よりタクシーで約5分
 施設HP : <https://www.rosario.jp/seiboryo/index.html>
 カルテ : 電子カルテ(日本光電社製)
 医療機器 : レントゲン、脳波計、心電図、PCR検査機器
 医師体制 : (2025年3月現在)常勤1名/非常勤6名

フクシは街づくり 多彩な地域貢献事業



長嶋茂雄旗争奪野球大会

巨人軍長嶋茂雄氏から社会福祉振興のために優勝旗が贈られたことを契機に、本会では施設職員の慰労、激励と地域青年との交流を目的として大会を主催



Mado-kaプロジェクト

- ・地域交流拠点機能
- ・市街地における休憩スペース
- ・相談支援機能
- ・生活支援コーディネート機能
- ・防災支援機能 など



Rakusai RPO担当者

諏訪・近藤

MOBILE : 080-7034-3397 (諏訪)

MOBILE : 080-4090-1827 (近藤)

E-mail : rpo@mstage-corp.jp